

## 日本パグウォッシュ会議諮問会議

### 提言

2018年6月

本提言は、日本パグウォッシュ会議運営委員会からの要望に基づき、パグウォッシュ会議ならびに日本パグウォッシュ会議の活動に対し、諮問会議としての提言をまとめたものである。なお、提言は主に日本パグウォッシュ会議の活動を対象としているが、国際パグウォッシュ会議への提言としても、十分に意義を持つものとする。この提言が、今後の日本パグウォッシュ会議の活動充実化に少しでも貢献することができれば幸いである。

### 現状認識

パグウォッシュ会議の原点である「ラッセル・アインシュタイン宣言」は、「水爆」の登場が「人類の危機」をもたらし、「人間性(Humanity)」を忘れないことが核兵器と戦争の根絶につながる最も重要な手段であることを訴えた。いまなお 15,000 発近い核兵器が存在し、その使用リスクが高まっている近年の情勢を考えただけでも、現代においてパグウォッシュ会議が果たすべき役割は極めて大きい。21世紀における科学技術と社会とりわけ国際政治・安全保障との関係は、より複雑多様化し、特に最近では、ソーシャル・メディアの発展により、市民社会も大きな力を持つと同時に、権力者が情報操作を行って民衆感情を左右することも可能となった。また、サイバースペース、AI等の発展により、人類がこれまで想定していなかったような「人類の危機」が訪れる可能性まで指摘されるようになった。

こうした情勢の下で、科学者は、その専門的知見を直接為政者や政策決定者に伝えるだけでは十分な役割を果たすことができない。パグウォッシュ会議は、今こそ、「ラッセル・アインシュタイン宣言」の原点に立ち返り、科学者の社会的責任を自覚し、科学技術が平和と持続可能な発展に資するべく、下記のように活動を改めて充実させるべきだ。

### 提言

1. 「対立を超えた対話」と「科学者の社会的責任」という理念を十分に踏まえ、常にこの理念を具体的な活動につなげていくこと。

「ラッセル・アインシュタイン宣言」の原点に立ち返り、「人間性 (Humanity)」を忘れることなく、非軍事的手段で紛争を解決すること、また、先端科学技術のもたらすリスクを専門的知見から検知し、それらのリスクについて社会に周知するとともに、先端科学技術が軍事を含む公共利益に反する目的に利用されないことを、活動の重要な柱にすべき。

2. 「科学的根拠を踏まえた議論」を常に心がけ、科学者（専門家）集団としての特徴を一層活かすとともに市民社会との協働を図ること。

21世紀における「科学者」は、「理学」と「工学」、「自然科学」と「人文・社会科学」といった専門の相違を乗り越え、また技術者とも連携することなしには、現在の複雑な諸課題の解決に立ち向かことができない。特に「科学に問うことはできるが、科学のみでは答えが見出せない」いわゆるトランス・サイエンス問題について、自然科学者と人文・社会科学者との協働作業、さらに市民社会との協働は不可欠である。最近のパグウォッシュ会議はそのような「専門家集団」としての特徴が失われつつある。パグウォッシュ会議でしかできないこと、言い換えれば専門家としての「科学的根拠を常に踏まえた議論」を重視し、それに必要とされる多領域の科学者の参加をえて、人文・社会科学者を含めた統合的な検討を進めるとともに、政策決定者や市民社会との連携を図ることが重要である。これが「科学者の社会的責任」の具体化の一つだ。

3. 「多様な意見を包含する (inclusive) 自由で開かれた議論の場」を構築すること。  
20世紀の「対立」は主に「東西対立」であった。しかし、21世紀の「対立」は、「権力」と「市民社会」、あるいは「保守」と「革新」、「平和主義者」と「戦争肯定者」など、まさに多様な「対立社会」となっている。したがって、パグウォッシュ会議の理念である「対立を超えた対話」を実現するためには、これまで以上に多様なステークホルダーに働きかける必要がある。対立軸にある意見を「排除」しない寛容な精神が「対立を超えた対話」には必要だ。そのためには、科学的根拠を踏まえ、自由で多様な意見を受け入れる inclusive (包含的な) 議論の場を作る必要がある。日本パグウォッシュ会議が中心となって、そのような場を日本に構築できれば素晴らしい。
4. 特定の立場に偏らず、社会全体への「助言機能」の充実を図ること。  
混乱する多様な価値社会において、専門家集団として、社会全体に対し、特定の立場に偏らず、人類共通の利益を目指した社会全体への「助言機能」が今こそ求められている。そのためには、政府、市民社会、また科学者コミュニティ (大学・研究機関・学協会等) への助言のみならず、立場を固めていない「沈黙の多数派 (silent majority)」への働きかけがとくに必要である。特定の立場を表明するような運動ではなく、パグウォッシュ会議でなければ取り上げられない問題について、科学者としての自主的な独立の立場から、理性に基づく助言活動を推進することが重要である。
5. 「次世代の専門家」を育成すべく、若者に魅力のあるプログラムを構築すること。  
核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) の成功を見るまでもなく、若い世代が活動の中心になることで、活動が大いに活性化することは間違いない。パグウォッシュ会議には Student and Young Pugwash という素晴らしい活動組織があるが、日本は特に若手の活動が物足りない。若手活動の育成を明確にした「若手パグウォッシュ夏の学校」のようなプログラムを作り、平和教育の必要性を各方面に伝えるとともに、科学者の社会的責任の自覚をもち活動の中心を担う次世代の専門家を育成すべきだ。